

2025年1月5日 第二礼拝

説教題「あなたを照らす光」イザヤ書60章1～3節、19～20節

主任牧師 加藤 誠

「起きよ、光を放て。あなたを照らす光は昇り／主の栄光はあなたの上に輝く。」(イザヤ60:1)

新約聖書の一番最後のページにはどのような言葉が書かれているかご存じですか。ヨハネ黙示録 22 章 16 節にはこう書かれています。「わたし、イエスは使いを遣わし、諸教会のために…あなたがたに証した。わたしは、ダビデのひこばえ、その一族、輝く明けの明星である」。主イエスは「輝く明けの明星」である。これは新約聖書の信仰です。

新約聖書の人びとは、彼らが生きている世界と時代を「夜」と表現するほかありませんでした。なぜなら「神を神として認めない不遜な人間の罪」が人々の間にあふれていたからです。しかしそのような世界を照らす「まことの光」が来てくださった。その光はまだ世界全体を照らすには小さいけれども、やがて世界全体を神の慈しみの光が包む新しい朝が確実にすぐそこに来ていることを知らせる「明けの明星」が夜空に昇った。この方の誕生によって新しい世界が始まった喜びの信仰に生きていこう…と、新約聖書は世界の人びとに呼びかけたのでした。

先ほどご一緒に開いたイザヤ書 60 章 1～2 節も、この新約聖書の信仰に重なる神のメッセージを伝えています。「起きよ、光を放て。あなたを照らす光は昇り、主の栄光はあなたの上に輝く。見よ、闇は地を覆い／暗黒が国々を包んでいる。しかし、あなたの上には主が輝き出て、主の栄光があなたの上に現れる」。

1 節の「あなたを照らす光は昇り」の「昇り」は字義通りには「来た」という動詞の完了形です。これはヘブライ語の「預言的完了形」といって、「まだ未来のことだけれども、今やすでに確実に来たのだ」という意味をあらわす言葉なのだそうです。それはつまり「今はまだ暗闇の中に歩んでいるけれども、しかし神の栄光はすでにあなたがたの上に成就した」と信じて受け取っていく、私たちの側に「信仰」を求める神の呼びかけなのです。

このように、聖書が語る神のメッセージと目の前の現実との間には、いつも大きなギャップがあります。「神は愛なり」と言われても、私たちの目の前には「神の愛を見いだせない現実」があふれているように、神の愛と現実とはしばしば衝突します。

この神の愛と現実の衝突に関して「ちいろば牧師」と呼ばれた榎本保郎先生は次のようなことを語っておられます。「ここで私たちは二つの『しかし』に直面する。一つは、神の愛と言われても現実には神の愛のかけらも見れないと、現実から神の働きを否定していく『しかし』。それに対してもう一つは、現実には暗さと悲しみが満ち

ているけれども神の言葉だから信じていこうという信仰の『しかし』。人間の現実から見て神に背を向ける『しかし』と、神の側から見て人間の現実を越えていく『しかし』と。どちらの『しかし』を生きるのかを、私たちは問われているのだ」と。

現実立って神に背を向ける「しかし」は「聖書はそういうけれど、やっぱりお金やこの世的な力も大切でしょ」という生き方です。主イエスのたとえ話にも出てきますよね。神さまの招待はありがたいけれど、商売の話は大切で、財産を損するわけにはいかないの…と「せっかくですが」と招待を後回しにする生き方です。あるいは神に「証拠」を求める姿勢もその一つかもしれません。主イエスの周りにも「お前が神の子だという証拠を見せてみろ。そうしたら信じてあげよう」と言う人びとがいました。けれどもそれらは決して他人ごとではなく、私の中にもある「しかし」です。

一方で、信仰に立つ「しかし」は「言葉があれば十分です」という信仰です。主イエスに自分の僕の病の癒しを頼みに来た百人隊長がそうでした。彼は「証拠」を求めず、「お言葉をください。それで十分です」と言いました。また主イエスに最初に出会った時のペトロがそうでした。夜通し漁をしても魚が捕れなかった朝、主イエスから「沖に漕ぎ出して、網を下ろしなさい」と言われた時に「お言葉ですから」と応えました。ペトロはプロの漁師としての判断をもとに反論できたはずですが、主イエスの言葉を受けたのです。現実立つ「しかし」と、信仰立つ「しかし」と。私たちは毎日、両者の間を右往左往しながら歩む者かもしれません。ペトロも100%、完全無欠の信仰で従ったわけではありません。ペトロの中にも不信仰が相当に混じっていました。だからペトロは網の中に大量の魚を見たときに「わたしは罪深い者です」と主イエスの前にひれ伏したのです。逆に言えば、不信仰もたくさん混じりながら、それでも信仰立って「しかし」を選びとっていく。主イエスは「わたしに従って、その豊かな幸いを学んでいきなさい」と招いておられるのでしょうか。

イザヤ 60 章の言葉に戻りますと、ここでイスラエルの人びとは「起きよ、光を放て」と呼びかけられています。「起きよ」ということは、それまで彼らは地に倒れていたということです。自分の力では立ち上がれないほど現実の前に打ちのめされていたということです。それほどに私たちは現実の力の前に弱く不信仰な者たちです。しかし 19 節「主があなたのとこしえの光となり、あなたの神があなたの輝きとなる」。神ご自身が暗闇の中に倒れている私たちを輝かせる光となってください。この「まことの光」に照らされて起き上がり歩みなさい…と聖書は招くのです。それゆえ、今なお暗い闇が覆う世界にあっても「あなたを照らす光が昇った」。新しい年 2025 年、「輝く明けの明星」として確かに私たちの間に来てくださった方にしっかりと目を注ぎながら、この方の光に照らされる喜びを歩んでいきましょう。